

地域スポーツクラブの在り方

高田 紗季 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 松山 尚道

キーワード：子ども 総合型地域スポーツクラブ スポーツ環境

1. 緒言

現在、子どものスポーツ環境として勝利至上主義が増え、結果、スポーツを楽しむ子供とそうでない子供が別れ、子ども達のスポーツ離れなどといった問題が深刻になっている。今のスポーツ環境に、満足していない子がいる。どんな子ども達でも、楽しくスポーツができるその「場」を少しでも増やすことはできないだろうか。

そこで、筆者は地域スポーツクラブに注目した。「今スポーツを楽しめていない子ども達にとって」という視点から地域スポーツクラブの在り方を明らかにしていく。現状として、我が国の地域スポーツクラブは単一種目型地域スポーツクラブ(以下、単一型クラブとする)がほとんどである。今の地域スポーツクラブの問題点を明らかにして、これからどうする事が必要なのか、考える。地域スポーツクラブといっても様々な形態とニーズがある。あくまでも今のスポーツ環境で楽しめていない子ども達、そんな子ども達から対しての地域スポーツクラブの在り方を示すことを通して、それが今後、子ども達にとっても地域スポーツクラブにとっても、ほんの少しでも参考となれば幸いと思い、研究を進めた。

2. 研究方法

本研究は文献から先行研究、ウェブサイトから実例や施策などを参考にした上で自分の考えまとめ、明らかにした。

3. 結果と考察

単一型クラブは現状としては、施設の使用は非効率であり、新規加入会員の大幅な減少により存続さえ危ういクラブもある。そして単一型クラブだけでは、単一種目、単一代代ということで種目やレベルを選ぶにしろ、自分の意志ではなく自分の身近にあるスポーツクラブである程度決まってしまう。クラブ同士の連携も、学

校との連携も間々ならず、「不安定」で「孤立化」しているクラブが多い。子ども達にとってスポーツをたった一つに絞らざるを得ない環境が多い。

その解決策として、総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブとする)を今後発展させる事に多くのメリットがあった。多様性があり、世代も志向も種目も選べる分多くのニーズに応えられることができる。また多世代の人同士で交流でき人間的にも成長が期待できる。実際に総合型クラブに力をいれている地域で効果が見られているのだ。身近にスポーツができ、自分に合った楽しさを見いだせる環境であり、これが実際に地域に根付き存続できるクラブが増えていけば、子ども達にとってスポーツというものの見方が少し変わるのではないだろうか。

4. まとめ

本研究で、どんな子ども達でもスポーツを楽しむためにはという視点からの、単一型クラブの限界、そして総合型クラブの発展に対してのメリットが明らかになった。また総合型クラブのメリットとともに問題点も明らかになり、この内容により、今後の地域スポーツクラブの発展または総合型クラブの普及に役立つのではないだろうか。

主要参考文献

- 1)美勝大橋(2005):総合型地域スポーツクラブ - 形成事例的考察 - 不味堂出版
- 2)文部科学省(2000)「第2部第7章第3節地域スポーツ環境の現状」我が国の文教施策
- 3)山口泰雄(2006):地域を変えた総合型地域スポーツクラブ 大修館書店